



## テーマ

収藏品情報のインターネット公開、来館者向け専用端末での公開を、安価に、少ない労力で実現する方法

収藏品情報をホームページで公開したいが、予算がない。  
自館で対応したいが、みんな忙しい。

## 近

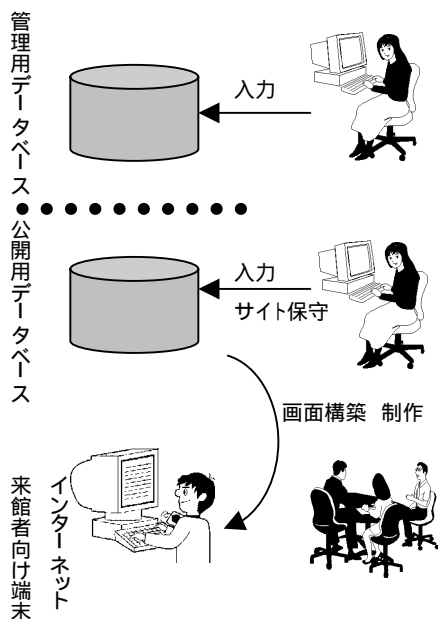
年、美術館・博物館のホームページ運営では、館の収藏品情報を検索できる機能を加えるケースが急増しています。また、学芸員の省力化や館内のバリアフリー化を目的に、来館者への案内用の端末を設置する館も、いまや珍しくありません。作品は実物で、情報はパソコンで……というユーザの観賞スタイルもさることながら、「情報公開」が「社会的責任」と同義語と化しつつある現在、作品データの共有資産化は今後のスタンダードとなりそうな気配です。ここ最近、当社へのご相談も急激に

増えておりますが、実現に漕ぎ着けるには、さまざまな障壁に行く手を阻まれるのが現実です。

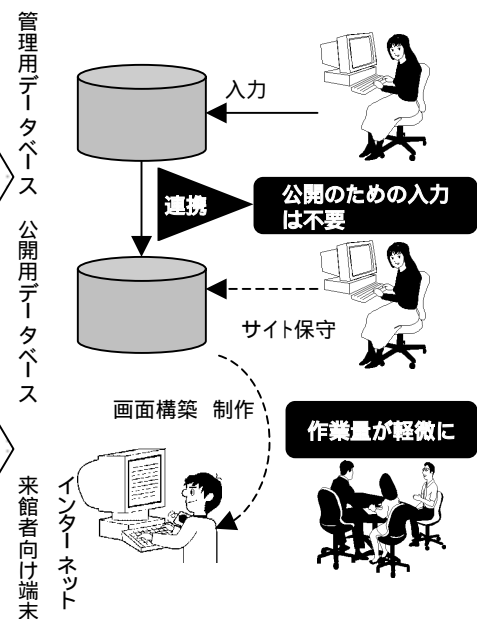
収藏品情報を市民に公開するには、まず、データ自体の入力作業を行わなければなりません。「作者」や「制作年」といった基礎データだけでは済まない上に、公開情報を常に充実した状態に保つには、更新やメンテナンスなど、継続的な手間が確実に発生します。さらに、当然のことながら、公開用のシステムが必要となりますので、初期投資もかかります。慢性的な人手不足・予算不足に悩む館の多いミュージアム業界で、そこまでできる館は、ほんのひと握りと言って良いでしょう。

ホームページにしても館内端末にしても、そこに掲載する記事の制作は「館運営上のデータとは別に、市民用のデータを改めて作り直す」ことに他なりません。そもそも、日常的なデータベースの更新と公開用記事の作成とを「別の作業」として考えるから二重の手間とコストが発生するわけで、Webサイトも館内端末も「データベース・システムの一部である」と考えれば解決できる問題なのです。

## 従来



## 今後



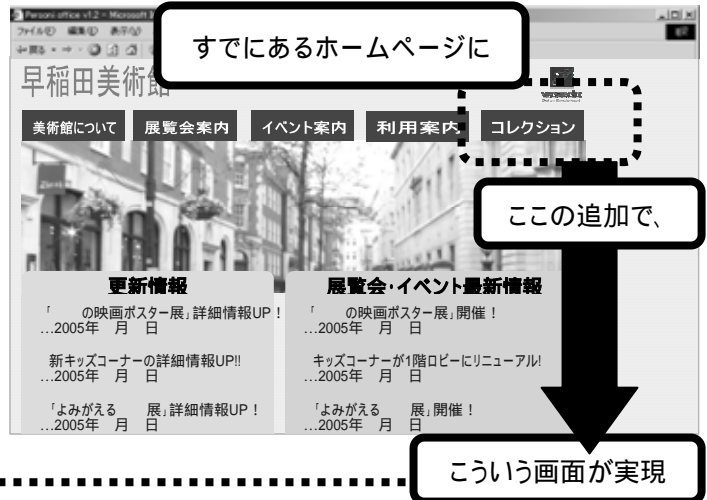
管理用データと公開用データの連携で、作業効率が大幅にアップ

パッケージソフトを有効に活用し、構築コストを節約

Webサイトも「館内データベースの一部である」という発想で、「管理作業 = 公開作業」にしてしまえばいいのです。

**実**

現のポイントは、データの統合管理。そこで、「I.B.MUSEUM 2005」では、館内データベースとインターネット・サイト/館内端末データの「完全連動」を目指す公開システム機能を実現しました。



画面サンプル



まずは、操作画面CDで。

**実**

実際の操作性を体感していただくために、情報公開システムの操作画面を録画したCD-ROMを制作いたしました。本稿にてご説明させていただいたパッケージの機能や使用感を、ぜひ画面でご覧下さい。

情報公開システム 操作画面CD-ROMについて

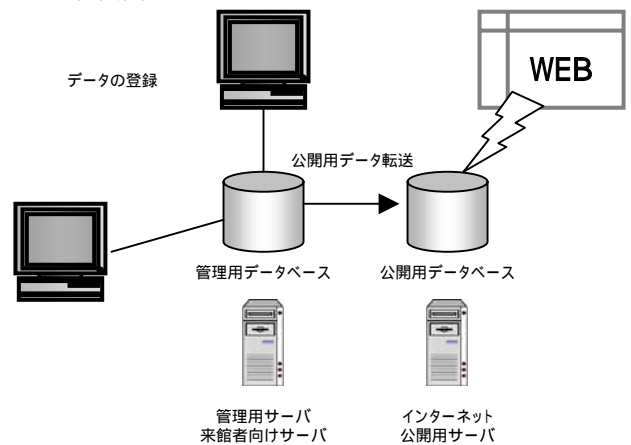
**こ**

のCD-ROMでは、「早稲田美術館 収蔵品検索システム」において、新しい作品が増えたのでインターネットで公開するというシーンを設定し、実際に作品情報の登録から再現しています。

シーンは以下の通りです。

作品の画像と登録したい情報を確認します。すでに登録済みの作家かどうか、また登録済みの作家か、公開システム側、管理システム側の両方で、検索機能を用いて確認します。初めての作家、作品であることが確認できたので、作品情報、作家情報を管理システムに入力します。管理システムの情報を公開システムに転送します。新しい情報が公開システム側に反映されていることを確認します。

システム概要図



**ま**

た、「いくら安価で手軽と言っても、見た目に館のオリジナリティが表現されていなければ…」というご要望にお応えし、トップ画面のシンボル画像やバーやボタンの色については、館で変更可能になっていますので、「安さ、手軽さ」と「個性の表現」の両立を実現したといえます。その部分についても、CD-ROMの末尾で解説していますので、併せて画面にてご確認ください。

情報公開システムについてのお問い合わせは

- ➔ Mail メールでのお問い合わせ sales@waseda.co.jp
- ➔ Phone お電話でのお問い合わせ フリーダイヤル 0120-14-9223(平日 月～金曜日 9:30～18:00)